

# カトリックさいたま教区サポートセンター ボランティア活動報告⑤

第18チーム・2011年7月28日(木)～8月2日(火)

## 湯本サポートステーション (福島県いわき市) (信徒女性2人、信徒男性2人、計4名)

現地での初日の木曜日は、湯本教会の氏家神父のお話を聞いた後、常駐スタッフの案内による被災地の視察。豊間地区、四倉、久ノ浜をまわった。それぞれの場所が少しずつ整地され、がれきのかたまりや、いろいろな物の山がありながらも、その中に季節の草花がひっそりと咲いていて、この景色には心が痛んだ。

金曜日はステーションから小名浜教会に出発し、積まれた物資の中から食器類を取りそろえて、避難所から仮設住宅に移る6名家族と2名家族に届けた。昼食後、いわき教会に赴き、いわき市の傾聴グループ「みみ」とミーティングをし、どのようにチーム組をするか話し合った。午後4時から仮設住宅をまわり、先週の訪問データから数名をピックアップして訪問した。

土曜日は昨日と同様食器類などを届けに、また仮設住宅をまわった。小名浜教会に置いてある物資の箱が積み重なっていて、なかなか整理が間に合っていない様子であった。



日曜日湯本教会でのミサ後、再び仮設住宅を訪問。訪問当初に出会った幼児がタッチをしてきてくれた。名前と年齢を教えてくれ、自分の自慢するものを見せてくれた。また、自転車に乗っている女の子たちから声をかけられて話をする中で、以前とは異なる小学校へバスで20数名が通っているという話を聞いた。

活動最終日の月曜日。訪問者カードの記入をした後、仮設住宅に向かった。班に分かれて、一方は資料の中で無記名のところを重点的に訪問し、もう一方は前回お願いされたおむつやタオルケットを届けに行った。聞くと

ころによると、大学生の通学、老人や主婦などが出かけるための交通手段としてバスが利用されているが、本数が少なく困っているとのことだった。



写真：撤去の始まった湯本教会のお聖堂

隣の司祭館を湯本ステーションとして借りている

第19チーム・2011年8月4日(木)～8月9日(火)

## 湯本サポートステーション (福島県いわき市) (信徒女性1人、シスター1人、司祭1人、神学生2人、計5名)

被災地の視察をしたが、すでに建設されてあるプレハブの仮設住宅と今建設中の木造の仮設住宅を見た。次の日の午前中に小名浜教会での物資整理、午後には傾聴グループ「みみ」とのミーティングと傾聴ボランティア。今までの傾聴の経過をふまえ、しぼり込んだ上で傾聴に出かける。



写真1：プレハブの仮設住宅



写真2：木造の仮設住宅

今後、訪問する範囲を広げてゆくこととケアの必要と思われる人に定期的に関わること、「みみ」との協力体制の中でやっていくことが話し合われる。

土曜日は傾聴ボランティアと湯本ステーションのちらしのポスティングを午前午後ともに行った。今まで情報のなかった仮設住宅の一地区を、この一日をかけて一通り訪問した。いわき市の七夕祭りがあったせいか、留守宅が多かった。

日曜日の主日ミサの後の茶話会で、湯本教会の信者さんと交流できた。午後はいわき教会の近くで「平七夕祭」があったので、見に行った。被災地復興を願う地元の方々の熱い思いが伝わってきた。

月曜日には、土曜日に訪問した仮設住宅をもう一度訪問する。午前中は特に一人住まいのご老人などを中心に、午後には土曜日に留守だったところを中心に訪問する。



写真3：平七夕祭の様子



写真4：「MERRY SMILE ACTION 被災地の子どもたちに希望の笑顔を咲かそう！」プロジェクトの看板

第20チーム・2011年8月11日(木)～8月16日(火)

## ■湯本サポートステーション（福島県いわき市） （信徒男性1人、司祭1名、神学生2名、計4名）

今回のボランティア活動は、時期がお盆と重なっているため、傾聴活動よりも支援物資の整理を優先させることとなった。現状では役立たなさそうなものでも、もう少し経つとニーズ（需要）が出てくるのではないかとい

うものがあり、そうしたニーズの変化をどこまで考慮すべきか考えつつ行うため、スピードが落ちる。

傾聴ボランティアでは地域ごとの特色を知っておられる「みみ」の皆様の会話の引き出し方が強く印象に残った。お盆が近いということで、いわき教会の方が行く先々ではお盆をプレゼントしていた。この時期、お盆は買うと高いからなのか、仮設の方々は皆さんとても喜んでいただいていたのも印象的だった。

傾聴をしていく中で現地の人々の意識にも差があるように感じた。内陸部など被害の少ない地域の方々の場合、被災の記憶が風化しつつある可能性が高いと感じたが、それが本心なのか、あえて表に出していないのかは判断できなかった。

日曜日には、山口公園でお米と野菜の配布を行った。炎天下、来場された方たちにとっては大変であったように思えた。年配の方々が重量のある物を持ち帰る際には、こちらも何か工夫してサポートできたらよいと思った。これは単に配布の会というわけではなく、出店や子供たちのためのおもちゃ（竹細工など）を作るブースなどもあった。他に、仮設での生活について相談するブースもあった。夜には和太鼓の演奏、打ち上げ花火などが行われた。物資を必要とする大人だけでなく、地元の青年や家族連れなどを一種の「お祭り」として、老若男女問わず、広く参加者として巻き込んでいたのが、印象的なイベントだった。現地の人々との会話で「一期一会だから」ということでこみ入った話をなさる方もいらっちゃった。

月曜日には、いわき教会でミーティングがあり、氏家神父といわき教会の信者さんと共に、地域や教会の実情に関してやり取りした。今後の湯本ステーションの在り方についても話し合った。



写真1：聖堂撤去により、さら地になった湯本教会

写真左の白い建物が司祭館兼、湯本ステーション